

## 施術トーク（参考）－FA3・アクチベータ

（第3版）

内容は一般的な患者さんを想定したイーファス施術のトークになりますので、先生の治療院に合わせたトーク内容を検討される際に参考になれば幸いです。

### 目次

<b>初診のトークと流れ</b> .....	2
▪ 挨拶と施術前の姿勢撮影.....	2
▪ 問診開始.....	2
▪ 施術の概要を説明する.....	3
▪ 動作検査を開始する時.....	4
▪ 骨盤ケア画面で検査の大切さと効果を体感していただく時は.....	5
▪ 動作検査の直後に行う説明.....	5
▪ 緊張緩和（FA-3）のチェック前.....	6
▪ 緊張緩和のチェック後.....	7
▪ 緊張緩和 FA3（1回目）施療する時.....	8
▪ 緊張緩和 FA3 中の参考トーク.....	8
▪ 緊張緩和 FA3（1回目）後の Before After 前.....	9
▪ 緊張緩和 FA3（仕上）.....	10
▪ アクチベータ前.....	11
▪ 施術後の Before After.....	11
▪ 姿勢評価をするときの説明.....	12
▪ 改善していくプロセスの説明.....	13
▪ 施術後の注意（自宅管理）.....	14

## 初診のトークと流れ

### ▪ 挨拶と施術前の姿勢撮影

こんにちは〇〇です。よろしくお願いいたします。  
本日症状の根本原因を見つけるために、姿勢も分析させていただきますので、施術の前に姿勢画像を撮影させてください。ではこちらへどうぞ

〈ポイント〉

初めて来院される患者さんは不安な心を持っておられるので、  
「患者さん自身のために必要である」という理由（説明）を添えてください。

### ▪ 問診開始

では詳しくお体の状況をお伺いさせていただきます。  
当院の施術はご自身の自然治癒力を高めていきますので、施術には関係なさそうな症状であっても良い影響が得られることがあります。最近の体の状態を詳しく教えてください。

〈ポイント〉

2回目以降に施術効果を実感していただけるポイントになるので、詳しいヒアリングをしてください。

①症状に対しては、**どこが、どんなときに、どんなふうに。**さらに**日常生活で支障をきたしている動作**などを詳しく聞いてください。

②健康に関する**将来の不安**や症状が**改善したらしたいこと**なども聞いておきましょう。

③他の医療機関で説明されている内容（原因や予後）は必ず聞いておきましょう。

**「もう治らない」と説明されて、諦めておられたり、失意の状態であったりすると治療力が働きにくくなっています。**

特に他院で施術を受けておられた患者さんには、原因や施術方法を説明する際、他の医療機関と**同じ内容にならないように注意**します。

〈目次に戻る〉

■ 施術の概要を説明する

本日受けていただく施術ですが、

この iPad はインターネットでイーファスというエキスパート AI の検査システムにつながっています。

1. まずシステム画面に従って現在の体の動きを入力します。
2. 全身の筋肉や関節のアンバランスをエキスパート AI 分析します。
3. 症状の原因部分をエキスパート AI が特定します。
4. 原因部分には当院オリジナルの治療法をさせていただき流れで行わせていただきます。

施術方法は体に合った方法を選択しますのでどうぞ安心して受けてください。

施術ではいかに自然治癒力を高められるかがポイントになり、まず身体重心の安定性を高めることが重要になります。

検査が重要な理由でもあるのですが、普段「姿勢」や「動き」は約 350 の筋肉や 206 の関節が連動（協調）して行われているので、アンバランスの原因部分の分析はとても難しいのです。

しかしシステムの検査と分析によって、およそ 194 万通りのアンバランスの中から〇〇さんのアンバランスを分析して原因箇所を特定しているので安心してください。

このアンバランスの分析は、レントゲンや CT などの静止した状態の画像検査では分析できないので、動きを詳細に分析する必要があります。

アンバランスが改善されてくると、体の様々な機能が向上してきます。

- ・ 筋肉や関節の動きがしなやかになる
- ・ 血行動態が良くなる
- ・ 自律神経の働きが良くなる
- ・ 姿勢が綺麗になる

いずれも、治癒力（修復力）を高める条件なのです。

〈ポイント〉

イーファスの動作検査は、言い換えればお一人お一人に存在している「体の使いクセ」を分析しているということでもあります。

ですので、**他との違い**として「体の使いクセの分析」や「クセを調整する」という言葉で説明する場合があります。

なお、このタイミングで [小指チェック] などの実施は有効で、「体のつながり（連動）の不思議」や「検査する意義」、「全身調整の必要性」を納得していただきやすくなります。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 動作検査を開始する時

では、しっかりと体のクセを分析して、原因部分を特定するために動きの検査を受けていただきます。

検査する動きは画面を見ていただきながら、口頭でも誘導していきます。

痛みや動きにくさを探していますが、なければ**動きやすい方**を探していきます。

ゆっくりと動かして、最後に2秒ほど止めたときの感じを教えてください。

〈ポイント〉

誘導するときは、術者も一緒に動作しながら誘導するとわかりやすくなります。

[〈目次に戻る〉](#)

- 骨盤ケア画面で検査の大切さと効果を体感していただく時は

この画面は、検査・分析の結果、ご自身でできる骨盤の調整（ケア）画面になります。実際に行ってみて、効果を体感してみましょう。

この画面は施術後に閲覧していただくことができますので、ご自宅で朝晩していただくと良い状態が定着していきます。

視聴方法は後から説明しますね。 ※セルフケア配信

<ポイント>

評価しにくいときは、クルリンパも追加すると評価しやすくなります。

[〈目次に戻る〉](#)

- 動作検査の直後に行う説明

**今までこんな検査を受けたことがありましたか？**

レントゲン検査や MRI 検査は静止状態の画像検査ですが、使いクセはそもそも普段の動かし方の蓄積によるので、このように「動き」を丁寧に検査することで、使いクセの状態がわかるのですよ。

また、**今動かしにくい方向があったことが重要です。**

本来は、左右や前後の動かし感覚は釣り合っていることが良い状態なのですが、差があることが使いクセが強くなりすぎていて良くない状態・身体重心の不安定性を現わしているのです。

施術途中で改善具合を確認しますので、しにくかった方向を覚えておいてくださいね。

釣り合いが取れるということは、重心が安定して、筋肉や関節がバランス良く働きだすということなのです。つまり治癒力がより良く働きだすということなのです。

〈ポイント〉

施術の最終目的は症状の消失ですが、その前提（条件）として体の治癒力を働きやすくすることです。隠れた原因である使いクセをまず整える。検証動作を改善させる（釣合わせる）ができれば、治癒力は働きやすくなり、体が良くなる方向へ向かっていくということを理解してもらいましょう。

イーファスを始めて受けられる方は、他では絶対に受けたことがない動作検査です。

「こんな検査を受けたことがありますか？」という問いかけは、独自の施術である印象付けにもなり、患者さんが口コミをされる際の「お勧め理由」にもなります。

〈目次に戻る〉

#### ■ 緊張緩和（FA-3）のチェック前

では、ベッドに上向きで横になってください。  
まず自律神経機能がどれくらい緊張していて働きにくくなっているのかをチェックしてみましょう。

↓

〈ベッドに寝てから〉

症状がある場合、神経機能が正常に働いていないことが多いのです。  
身体は不調になってくると、神経を高ぶらせて防御状態（バリア）になっています。  
身体を護るという点でそうした状態になっているのですが、同時に神経が興奮気味になり、元々の**治癒力が半減**していたり、**施術効果を半減**させてしまったり、ご自身が体のために良いことをしても、上手く**効果しない状況**になっています。  
一般的な治療では、まずこの部分を見逃していることが多いのですよ。

↓

**※仰臥位・立膝で左右に膝倒しをしてしにくい方があれば覚えておいてもらう。**

↓

では、頭のとっぺんから足先まで完全に力を抜いてみてください。

↓

大体力が抜けましたか？

↓

では過度な緊張を緩和していきます。

↓

ゆっくりとした呼吸をしてください。

できれば吸う息よりも吐く息を少し長めにしてください。

楽なペースで穏やかな呼吸をお願いします。

↓

〈ポイント〉

**まずは自然な呼吸で力を抜いてもらい。**

**徐々にゆっくりとした穏やかな呼吸を誘導しましょう。**

※仰臥位で膝を立てた左右倒しで左右差があるときは、緊張緩和で改善しますので、「体幹のねじれを調整します」と言ってから始め、終わってから検証する流れが良いです。

〈目次に戻る〉

■ 緊張緩和のチェック後

今「ふわっ」とした感じが緊張緩和（リセット）した感覚です。

身体の状態が悪いときは、常に緊張していて、正常な状態に戻れなくなっているのです。

自律神経の緊張も良くなれなかった原因なのですよ。

〈ポイント〉

神経の過度な緊張は症状が良くならなかった根本原因の一つであると説明してください。

〈目次に戻る〉

■ 緊張緩和 FA3 (1回目) 施療する時

では、神経機能を正常に働く状態に調整していきます。

ゆっくりと穏やかな呼吸をしておいてください。

私が体に触れていきますが、反応しないように力を抜いておいてください。

神経を興奮させないために、とてもソフトなタッチで調整していきます。

もし触られて、嫌な感じがしましたらおっしゃってください。

〈ポイント〉

施術中、ゆったりとした口調で、穏やかな呼吸誘導を途中何度も行ってください。

〈目次に戻る〉

■ 緊張緩和 FA3 中の参考トーク

**一般の方で神経の緊張を完全に緩和させられる人は殆どおられません。**

特別な訓練をした方で、仙人のような方くらいなんですよ。

本日施術の後、神経機能も正常に働くようになり、体は好転していきますが、

今していただいている穏やかな呼吸は、帰ってからも意識して続けてください。

穏やかな呼吸を無意識にするコツは、穏やかな気持ちで生活することです。

いつもより、**〔優しい気持ちで人に接し〕〔優しい言葉〕を心がけることがポイント**ですよ。

〈目次に戻る〉



■ 緊張緩和 FA3（1回目）後の Before After 前

では神経機能を正常化しましたので、起き上がってベッドに座ってみてください。  
先ほど動作検査でしにくかった動作を確認してみましょう。  
症状を改善するためには、体の前後や左右のバランスを改善することが重要です。  
少し動かしやすくなっていると思いますよ。

〈ポイント〉

まず対象筋画面左上の検証動作の水平面と前額面動作の改善具合を確認します。

1回目のFA後なので完全に症状が消失していないことも当然ありますが、患者さんには少しでも改善している部分を確認してもらいましょう。

なお、仰臥位で膝を立てた左右倒しで左右差があった方は、その改善具合も確認してください。

今動きが変化したということは、神経機能が正常化したということなのです。  
神経機能の正常化によって、この後治癒力がより良く働いて快方に向かっていきます。

〈目次に戻る〉

■ 緊張緩和 FA3（仕上）

では、またベッドに横になってください。

※穏やかな呼吸を促しながら、仕上げていきます。

※仰臥・伏臥でできる骨格アクチベータも行っても良いです。

ここで、施術の内容やカラダに参考になるお話をしてあげてもいいですし、施術後にお話ししてあげても構いません。

<動作検査の意味>

どうしても症状のある部位に意識は行きますが、実は症状を作り出している隠れた原因として使いクセが影響しています。施術では、使いクセを強くなり過ぎている筋肉や関節を見つけることが重要になっています。

使いクセは普段の動きによって作られ、動きに現れているので、今回のような丁寧な動作検査が重要になるのです。

受けていただいた動作検査の結果を、AIシステムによって194万通りもあるアンバランスなパターンからあなたの使いクセを分析して、最適な矯正方向を導き出しているのです。

普段の動きや姿勢には、全身で350以上の筋肉や200以上の関節がかかわっていて、それらのバランス（協調性：つながり）がとても大切なのです。

※因みに動き・姿勢に関係しない筋肉（内臓・感覚器官等）まで含めると筋肉は全身に600くらいあります。

<ポイント>

良くなった後にしたいこと（趣味・スポーツ・旅行 etc）など聞いてあげて、  
プラスな気持ちを作るようにしましょう。**心の方向性良くする = 体の方向性を高める**

[〈目次に戻る〉](#)

■ アクチベータ前

AI が特定したポイントに刺激を入れていきます。  
バチンと音がしますが、痛くないので安心してください。  
こうした刺激に対する「体の反射」を利用した施術で、体自体に「良くなる方向」を教えているような施術です。

〈ポイント〉

アクチベータを他の医療機関で経験したことがある方がおられましたら、次のように説明してください。

↓

「同じ器具を使って治療されていることもありますが、当院では動作検査の上でお体に合ったポイントを分析して、検査結果に基づいて行っている点がこだわりなのです。」

[〈目次に戻る〉](#)

■ 施術後の Before After

では本日の施術を完了しましたので、起き上がってベッドに座ってみてください。  
先ほど動作検査でしにくかった動作や主訴を確認してみましょう。  
しやすくなっていると思いますよ。

↓

イーファス画面左上の検証動作（水平面・前額面）をチェック

↓

しにくい方が逆転していることもありますが問題ありません。

※アンバランスを戻している状態なので問題ないことを伝えてあげてください。

↓

主訴の動きがあれば改善をチェックしてください。

症状や体の状態によって、必ず「0」になるとは限りませんが、「良くならなかった内容」よりも「良くなっている内容」にフォーカスしていただくようにして、「良くなっていく」ということを理解し、安心していただくように説明してください。

↓

施術前に比べて治癒力が正常に働く状態になっています。  
この後、ご自宅に帰られてからの注意点を説明しますね。

※改善度が大きい時ほど、患者さんは嬉しくなり動きがちになります。  
症状が変化しても、体の状態としてはまだ回復していない状態が多いので、施術で良くなったときほど、帰ってからの安静指導はしっかりと理解していただきましょう。

〈目次に戻る〉

■ 姿勢評価をするときの説明

やはり姿勢にも乱れが出ていました。  
でも良く改善されていますので、確認してみましょう。

施術前のこうした不良姿勢では、重心が●●な傾向があるので、特に●●や●●に負担がかかっていたようです。不良姿勢は知らず知らずに現れてきますが、症状が現れやすく、治りにくい根本原因になっています。

今綺麗に姿勢を整えたことで、体は無理な負担から開放されます。  
自然治癒力も強く働くようになり、快方に向かっていきますので安心してください。  
後、この良いバランスや姿勢を定着するようしていけば、だんだんと良くなっていきますよ。

<ポイント>

・改善が見られた部分を指し示し、合成比較で確認する悪い姿勢部分が、症状の原因（どのような体への負担）になっていたことを説明してください。

・さらに、悪い姿勢は放置してもなかなか改善されないこと。  
また、年々悪くなる可能性があることを説明して、**健康維持管理に姿勢管理が重要なことも伝えてください。**

・姿勢の変化には時間がかかっていることを説明し、戻りが生じやすいので、定着させるように正しい生活習慣が大切なことも教えてあげましょう。

・透過スライダーの動かすスピードを工夫すると違いが見えやすくなります。

身体が軽くなったことを体感していただいて、喜びを共有してください。

※良い評価があったときは、iPadの画面収録機能を使用して、合成比較している動画（無音）を収録し、後からLINEで患者さんに送ってあげると、紹介のきっかけになることがあります。

[〈目次に戻る〉](#)

#### ■ 改善していくプロセスの説明

施術によって、神経機能が正常に働き、身体重心の安定とバランス（協調性）の改善で、血行が良くなり、治癒力による回復プロセスが始まります。

生活環境、使い方、体力、症状が現れてからの期間等によって個人差はありますが、必ず快方に向かっていきます。

体が回復していく過程で、体の中で様々な変化が起きるので、少し重だるいとか、しばらく使っていなかった動きがはじまり、疲れを感じやすくなる場合がありますが、数日で収まります。

**今のこの良い状態を続ければ、良くなるわけがないのです。**

一般的には・・・大体●●な期間で改善します。

状態が悪く、症状が戻りやすい場合はすぐにご連絡くださいね。

<ポイント>

改善する目安を示してあげましょう。

次回最適な加療日を伝えてください。

[〈目次に戻る〉](#)

■ 施術後の注意（自宅管理）

次に施術後の生活アドバイスですが、快方に向かわせるのは、ご自身の治癒力なので、働きやすいように次のことに注意してください。

**穏やかな呼吸と穏やかな気持ちを続ける**ように注意してください。

**朝晩の呼吸法を行っている時に骨盤ケア**も行ってください。

また**睡眠や入浴も大切**なので、帰ってから見ていただけるセルフケアの画面の中でも詳しくアドバイスしていますので見てくださいね。

<ポイント>

セルフケア配信画面の説明を簡単におきましょう。

※機能紹介画面にセルフケア配信機能の説明スライドがあります。

※その他問診で気づいたことがあればアドバイスしてあげてください。

[〈目次に戻る〉](#)